

武士の世の中 | 武士の政治が始まる

1 単元の概要

鎌倉時代になると、貴族にかわって武士による政治が始まります。ここでは、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを中心に、武士による政治や社会が確立されていった様子を学習します。また、武士による政治が進められる中で、新しい文化が起こったことや人々の暮らしが変化していったことなどを、地域に残る歴史的資料などを積極的に活用して学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことを理解させる。
- 各種の基礎的資料を読み取ったり地域に残る建造物や史跡などの史料を活用したりしながら、当時の人々の暮らしや願いについて考えることができるようにする。



やから様(八幡西区に残る平氏の伝承地)

3 指導計画(総時数4時間)

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 武士の暮らしの様子や武士が力をもつようになったわけについて話し合い、学習問題をつくる。 ・武士の館 ・一所懸命	○ 貴族の屋敷と武士の館の図を比較したり、年表を確認したりして、武士の世の中への興味をもたせ、政治の仕組みや社会の様子について調べる計画をたてさせる	1時間
II 源頼朝と鎌倉幕府の政治の仕組みについて調べる。 ・御恩と奉公 ・執権北条氏	○ 将軍と御家人の関係図をもとに、土地を仲立ちにした政治体制の基本をとらえさせる。	1時間
III 元との戦いについて調べ、鎌倉幕府の力が衰えていったわけについて話し合う。 ・元寇 ・北条時宗	○ 元軍の戦いの様子や北条時宗に関するエピソードなどを調べ、幕府が2度の元の攻撃を退けたことがわかるようにする。 ◆ 蒙古襲来絵詞	1時間
IV 源平の戦いや武士による政治が行われていた時代についてまとめる。 ・平清盛 ・源頼朝 ・源義経 ・壇の浦の戦い ・金剛力士像 ・足利義満	■ 博物館での学習 ○ 源平の戦いと北九州との関わりを切り口に、この時代への関心を高める。 ○ 新しい文化や大陸との交易の様子を調べることを通して、武士の世の中の様子をとらえさせる。 ◆ 「源平の戦いと北九州」のパネル ◆ 金剛力士像 ◆ 遣明船シアター	1時間

4 学習展開例(1時間扱い)

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
源氏と平氏の戦いと北九州とのつながりや、武士による政治が始まった時代についてまとめよう。		博物館での学習 1時間
I 北九州に残る平氏の伝承地を調べる。	○ それぞれの場所のいわれについて調べ、平氏と北九州の強い結びつきに気付かせるとともに、学習への関心を高めさせる。 ○ 平氏滅亡後、朝廷から征夷大將軍に任じられた源頼朝が鎌倉に幕府を開いたという事実関係をおさえる。	◆「源平の戦いと北九州」のパネル
II この時代の文化を代表する金剛力士像を見て、鎌倉時代の様子について考える。	○ 「金剛力士像」の質素さや力強さに着目させ、貴族の時代の文化とは違った武士の時代の新しい文化を当時の社会の様子と関連付けて考えさせる。	◆大興善寺 金剛力士像
III 遣明船シアターを見て、当時、行われていた大陸との交易の様子を調べる。	○ 菅原道真の進言により遣唐使が廃止された後も、大陸との交易は、宋⇒元⇒明との間で続き、我が国の経済に大きな影響を与えていたことに気付かせる。 ○ シアターで紹介される映像は、室町時代の話が中心だが、大陸との交易が、武士の世の中になって盛んに行われるようになったことをおさえる。	◆遣明船シアター ◆宋銭 ◆勘合印
IV 武士の時代になって、どのような社会がつくられていったのか考える。	○ これまで調べたことや考えたことをもとに、武士の時代になってどのような社会がつくられていったのか自分の考えをワークシートにまとめる。	

5 博物館での学習

源氏と平氏の戦いと北九州とのつながりや、武士による政治が始まった時代についてまとめよう。

博物館での学習
1 時間

栄華を誇った平氏一族は、寿永4年(1185年)関門海峡の壇ノ浦で源義経率いる源氏との戦いに敗れ滅亡しました。平氏の勢力が強かった北九州には、平氏にまつわる伝承地が多く残っています。「源平の戦いと北九州」のパネルを見ることで、北九州と平氏の結び付きの強さを実感することができるでしょう。このような地域に残る史跡を調べることは、子どもたちの学習への関心をさらに高めることにつながります。



「源平の戦いと北九州」パネル

「金剛力士像」の置かれている大興善寺は、鎌倉幕府の執権北条氏が創建したと伝えられる寺院です。山門に立つ阿形・吡形の仁王像の姿からは、当時の気風を反映した質素で力強い武士の時代の新しい文化の興りを感じることができます。この像を見ることで、子どもたちは平安時代の貴族の文化とは違う、まさに時代の変化を感じ取ることができるでしょう。

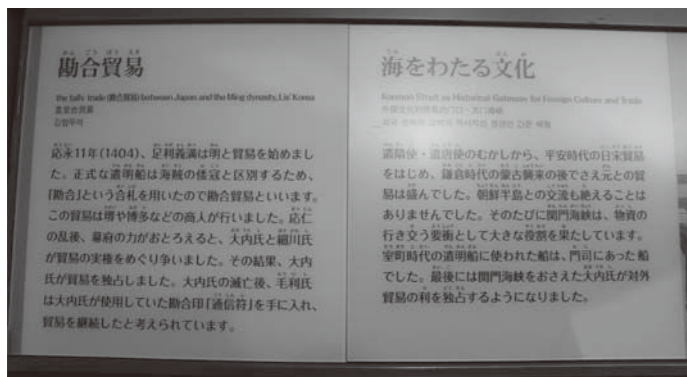


吡形の仁王像 (口を閉じている)



阿形の仁王像 (口を開けている)

平清盛は日宋貿易を進め、その拠点となった大輪田泊や博多は栄えました。鎌倉時代から室町時代にかけて大量に輸入された宋銭は国内に流通し、当時の市場の要求に応えるだけの貨幣量を準備できなかった我が国の経済の基盤となりました。北九州では、門司氏が早くから大陸との交易を担っており、シアターでは、その交易の様子がアニメーションで説明されます。子どもたちにとって、この映像資料は、武士の時代に始まった貿易の様子をわかりやすく伝えることでしょ。



「大陸との交易に関する説明文」



輸入銅銭 (宋の貨幣)

1 「金剛力士像」を見て、平安時代の文化とくらべて、気付いたことや考えたことを書きましょう。



予想される児童の回答

.....

筋肉がすごい、強そう、力が入っている、たくましい

.....

ちょっとこわい、カッコいい、貴族のふんいきとちがう、

.....

いかにも武士が好きそうな、武士らしい感じなど

.....

.....

2 遣明船シアターを見て、気付いたことや考えたことを書きましょう。



予想される児童の回答

.....

幕府は外国と貿易をして、しっかりともうけていた

.....

北九州は、昔から大陸への窓口になっていた

.....

遣唐使みたいに苦労しながら、大陸に渡って

.....

がんばっていた人たちがいたことがわかったなど

.....

3 学習したことをもとに、武士の時代になって、どのような社会がつくられていったのか考えて書きましょう。

予想される児童の回答

.....

武士が支配する、力強いふんいきをもった世の中になっていった

.....

戦いを繰り返して、勝った人たちが世の中を動かす立場になっていった

.....

外国とつきあい、お金をためて、しっかりとした日本になっていったなど

.....

.....